

令和4年度  
第7回市政モニターアンケート

障害福祉施策について

北九州市広報室広聴課

## 目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
1. 障害のある人への理解や関心について	2
2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について	15
3. 共生社会を実現するための取り組みについて	18
IV 全体考察	23

## I 調査の概要

調査対象者 市政モニター149人  
 回答者数 142人(回収率95.3%)  
 調査実施日 令和4年10月17日～令和4年10月31日  
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査  
 調査実施課 北九州市広報室広聴課 Tel582-2527  
 調査依頼課 北九州市保健福祉局障害福祉企画課 Tel582-2453

## II 市政モニターの構成

R4.10.17

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 (100.0%)	64 (43.0%)	85 (57.0%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	門司区	19 (12.8%)	10 (6.7%)	9 (6.0%)
20歳代	19 (12.8%)	9 (6.0%)	10 (6.7%)	小倉北区	28 (18.8%)	13 (8.7%)	15 (10.1%)
30歳代	22 (14.8%)	4 (2.7%)	18 (12.1%)	小倉南区	31 (20.8%)	12 (8.1%)	19 (12.8%)
40歳代	25 (16.8%)	11 (7.4%)	14 (9.4%)	若松区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
50歳代	23 (15.4%)	11 (7.4%)	12 (8.1%)	八幡東区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
60歳代	25 (16.8%)	13 (8.7%)	12 (8.1%)	八幡西区	37 (24.8%)	14 (9.4%)	23 (15.4%)
70歳以上	33 (22.1%)	16 (10.7%)	17 (11.4%)	戸畑区	12 (8.1%)	7 (4.7%)	5 (3.4%)

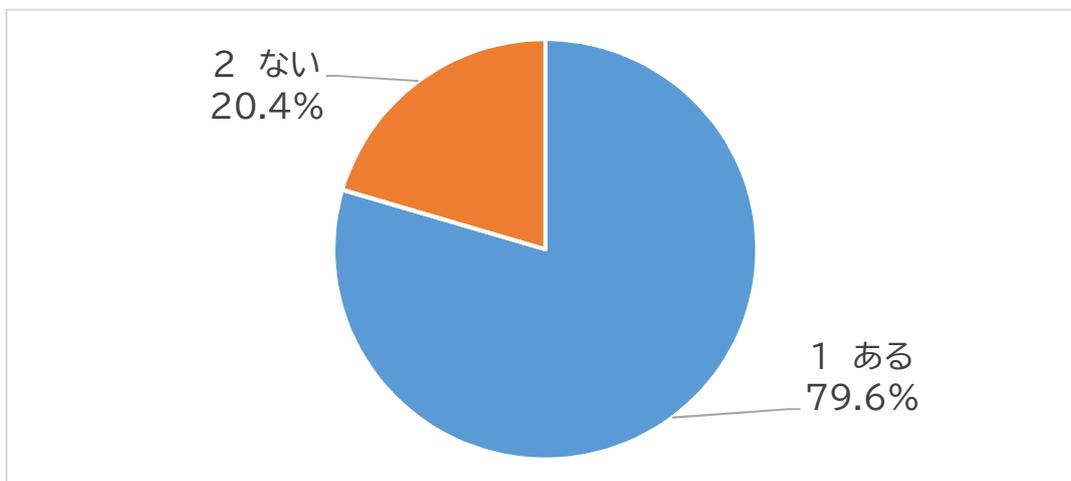
※モニター総数149名のうち郵送モニター24名、ネットモニター125名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 障害のある人への理解や関心について

問1 あなたは、今までに障害のある人に接したり、交流したりした経験がありますか。

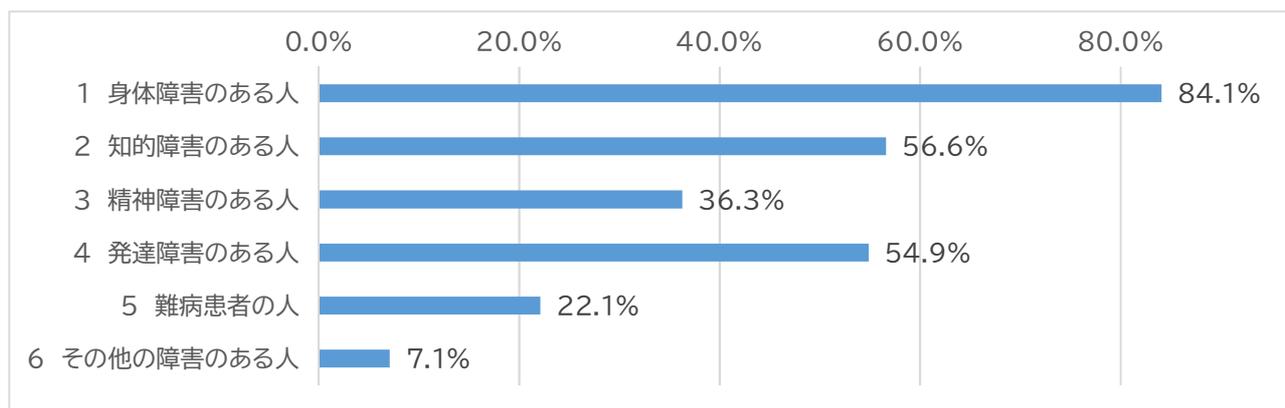


		回答者数	1 ある	2 ない
全体		142 人	79.6%	20.4%
性別	男性	59 人	74.6%	25.4%
	女性	83 人	83.1%	16.9%
年齢別	20 歳代以下	15 人	93.3%	6.7%
	30 歳代	22 人	72.7%	27.3%
	40 歳代	25 人	84.0%	16.0%
	50 歳代	23 人	82.6%	17.4%
	60 歳代	24 人	75.0%	25.0%
	70 歳以上	33 人	75.8%	24.2%
区別	門司区	18 人	83.3%	16.7%
	小倉北区	26 人	84.6%	15.4%
	小倉南区	28 人	85.7%	14.3%
	若松区	11 人	90.9%	9.1%
	八幡東区	11 人	54.5%	45.5%
	八幡西区	37 人	73.0%	27.0%
	戸畑区	11 人	81.8%	18.2%

障害のある人に接したり、交流したりした経験が「ある」は、79.6%で、年齢別では、20 歳代以下が93.3%と最も高くなっています。

問2 <問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>

それはどのような障害のある人に接したり、交流したりしたのですか(○はいくつでも)

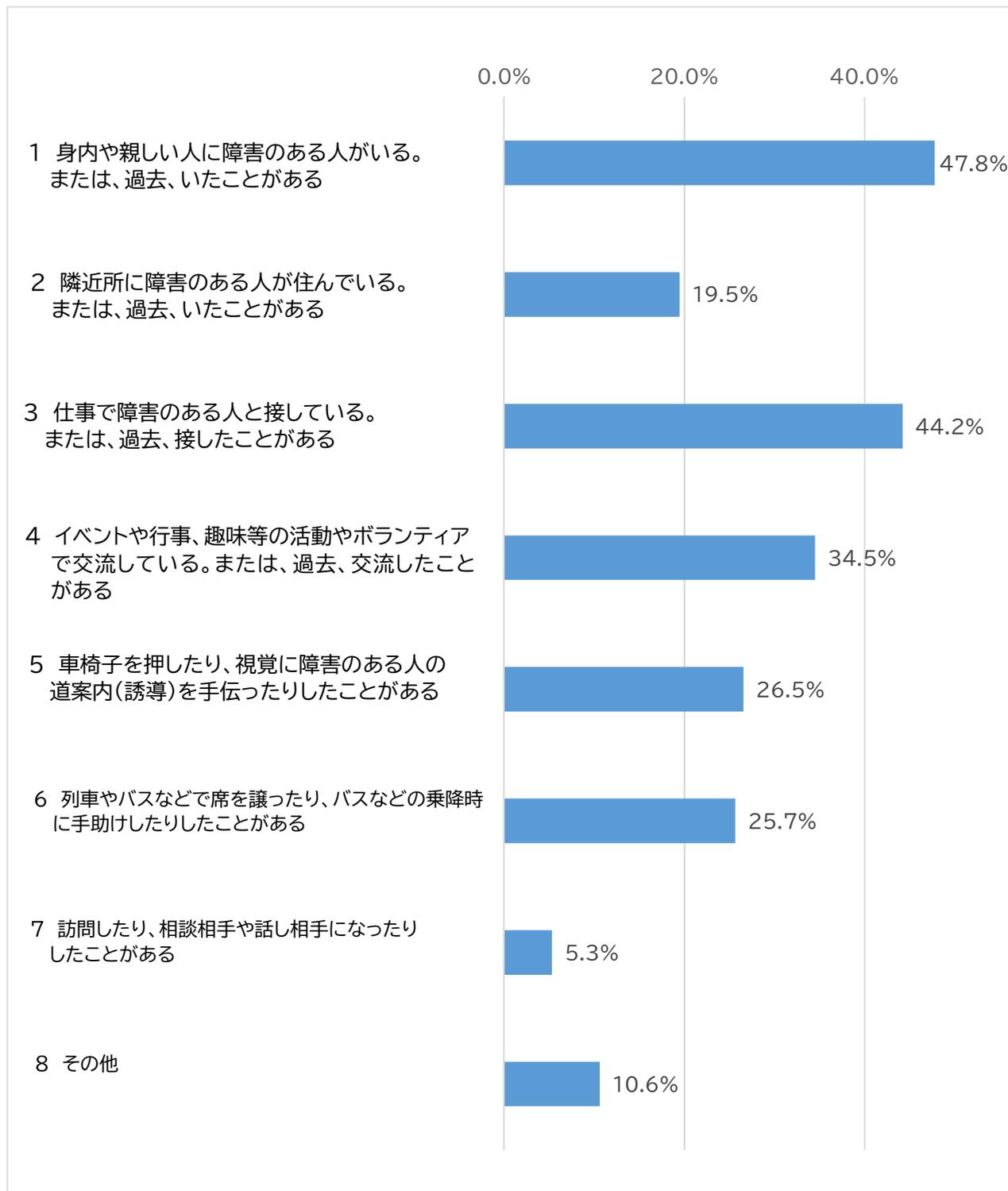


		回答者数	1 身体障害のある人	2 知的障害のある人	3 精神障害のある人	4 発達障害のある人	5 難病患者の人	6 その他の障害のある人
全体		113人	84.1%	56.6%	36.3%	54.9%	22.1%	7.1%
性別	男性	44人	75.0%	47.7%	27.3%	43.2%	20.5%	6.8%
	女性	69人	89.9%	62.3%	42.0%	62.3%	23.2%	7.2%
年齢別	20歳代以下	14人	71.4%	71.4%	42.9%	42.9%	21.4%	7.1%
	30歳代	16人	75.0%	62.5%	50.0%	68.8%	25.0%	0.0%
	40歳代	21人	90.5%	81.0%	61.9%	71.4%	42.9%	23.8%
	50歳代	19人	84.2%	42.1%	36.8%	73.7%	10.5%	5.3%
	60歳代	18人	94.4%	38.9%	27.8%	38.9%	16.7%	5.6%
	70歳以上	25人	84.0%	48.0%	8.0%	36.0%	16.0%	0.0%
区別	門司区	15人	86.7%	60.0%	26.7%	46.7%	6.7%	6.7%
	小倉北区	22人	68.2%	45.5%	36.4%	45.5%	13.6%	4.5%
	小倉南区	24人	91.7%	54.2%	41.7%	54.2%	33.3%	16.7%
	若松区	10人	100.0%	50.0%	50.0%	70.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	6人	66.7%	66.7%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	27人	81.5%	63.0%	37.0%	55.6%	25.9%	0.0%
	戸畑区	9人	100.0%	66.7%	33.3%	66.7%	44.4%	22.2%

障害のある人に接したり、交流したりした経験では、「1 身体障害のある人」との交流等が84.1%と最も高くなっています。

年齢別では、20歳代以下が93.3%と最も高くなっています。

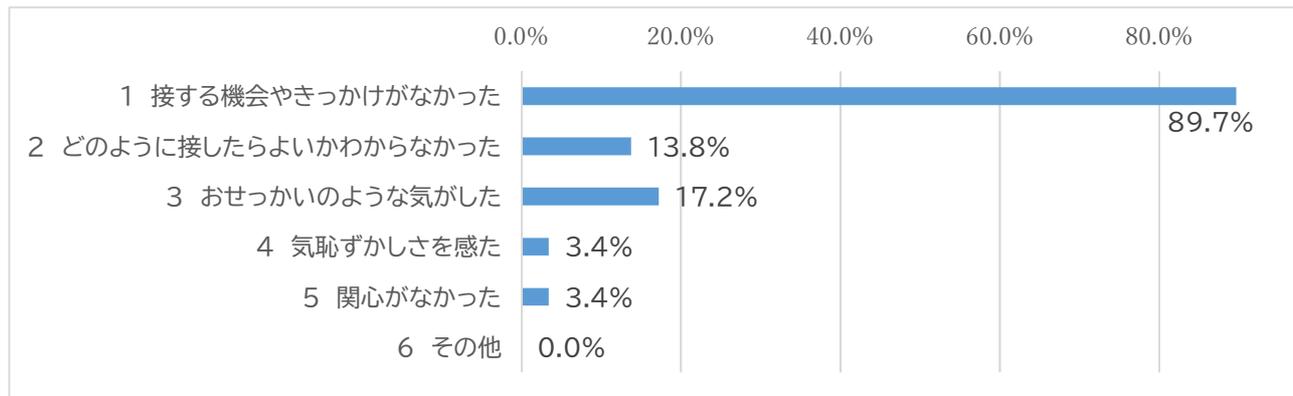
問3 <問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>  
それは具体的にどのようなことですか(○はいくつでも)



		回答者数	1 身内 や親しい 人に障害 のある人 がいる。 または、 過去、いた ことがある	2 隣近 所に障害 のある人 が住んで いる。また は、過去、いた ことがある	3 仕事 で障害の ある人と 接している。 または、過 去、接した ことがある	4 イベ ントや行 事、趣味 等の活動 やボラン ティアで 交流して いる。また は、過去、交流 したことが ある	5 車椅子 を押したり、視 覚に障害 のある人 の道案内 (誘導)を 手伝った りしたことが ある	6 列車 やバスな どで席を 譲ったり、バス などの乗 降時に手 助けした りしたことが ある	7 訪問 したり、 相談相手 や話し相 手になっ たりした ことがあ る	8 その他
全体		113人	47.8%	19.5%	44.2%	34.5%	26.5%	25.7%	5.3%	10.6%
性別	男性	44人	47.7%	15.9%	38.6%	38.6%	20.5%	22.7%	2.3%	15.9%
	女性	69人	47.8%	21.7%	47.8%	31.9%	30.4%	27.5%	7.2%	7.2%
年齢別	20歳代以下	14人	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	21.4%
	30歳代	16人	43.8%	6.3%	56.3%	31.3%	31.3%	6.3%	12.5%	12.5%
	40歳代	21人	57.1%	33.3%	61.9%	38.1%	38.1%	42.9%	19.0%	14.3%
	50歳代	19人	57.9%	21.1%	57.9%	21.1%	10.5%	15.8%	0.0%	5.3%
	60歳代	18人	50.0%	11.1%	38.9%	44.4%	27.8%	38.9%	0.0%	5.6%
	70歳以上	25人	44.0%	16.0%	24.0%	40.0%	32.0%	36.0%	0.0%	8.0%
区別	門司区	15人	46.7%	26.7%	46.7%	33.3%	40.0%	33.3%	0.0%	13.3%
	小倉北区	22人	36.4%	22.7%	31.8%	36.4%	13.6%	27.3%	0.0%	9.1%
	小倉南区	24人	37.5%	25.0%	54.2%	41.7%	29.2%	25.0%	12.5%	12.5%
	若松区	10人	60.0%	10.0%	40.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	八幡東区	6人	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	27人	55.6%	14.8%	48.1%	33.3%	29.6%	25.9%	7.4%	14.8%
	戸畑区	9人	55.6%	22.2%	44.4%	44.4%	22.2%	33.3%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりし経験の具体的な内容は、「1 身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある」(47.8%)が最も高く、次いで「3 仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(44.2%)の順となっています。

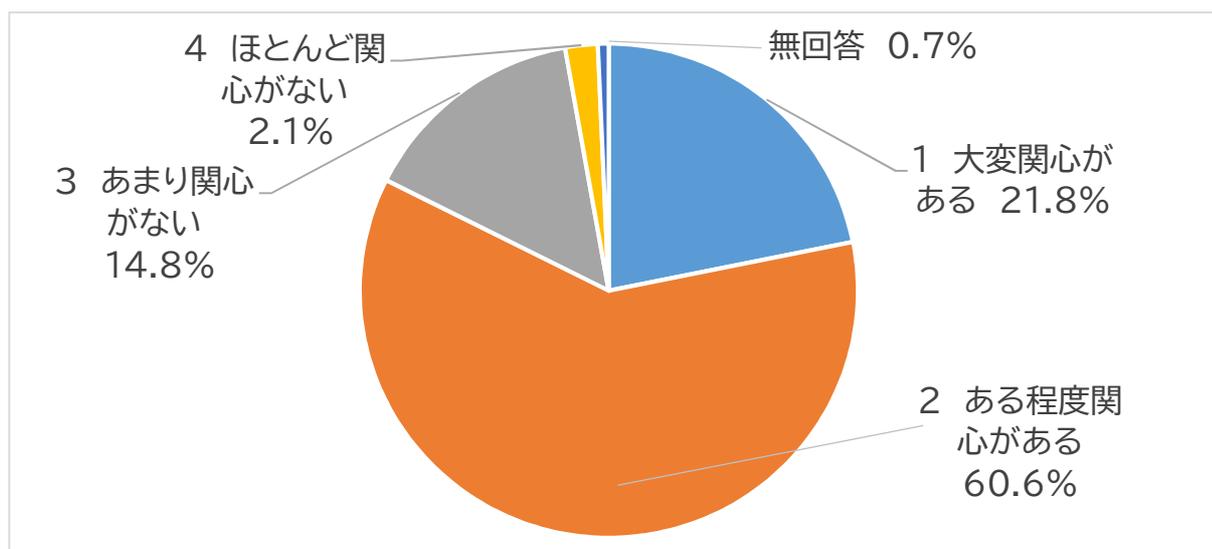
問4 <問1で「2 ない」と答えた方におたずねします>  
 接した経験がない理由は何ですか(○はいくつでも)



		回答者数	1 接する機会やきっかけがなかった	2 どのように接したらよいかわからなかった	3 おせっかいのような気がした	4 気恥ずかしさを感じた	5 関心がなかった	6 その他
全体		29人	89.7%	13.8%	17.2%	3.4%	3.4%	0.0%
性別	男性	15人	93.3%	13.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	14人	85.7%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%
年齢別	20歳代以下	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	6人	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	4人	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	50歳代	4人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	6人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	8人	87.5%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%
区別	門司区	3人	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	4人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	小倉南区	4人	100.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	5人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	10人	80.0%	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりしたことがない理由等として、多くの方が「1 接する機会やきっかけがなかった」(89.7%)と回答しています。なお、「5 関心がなかった」と回答した方は 3.4%でした。

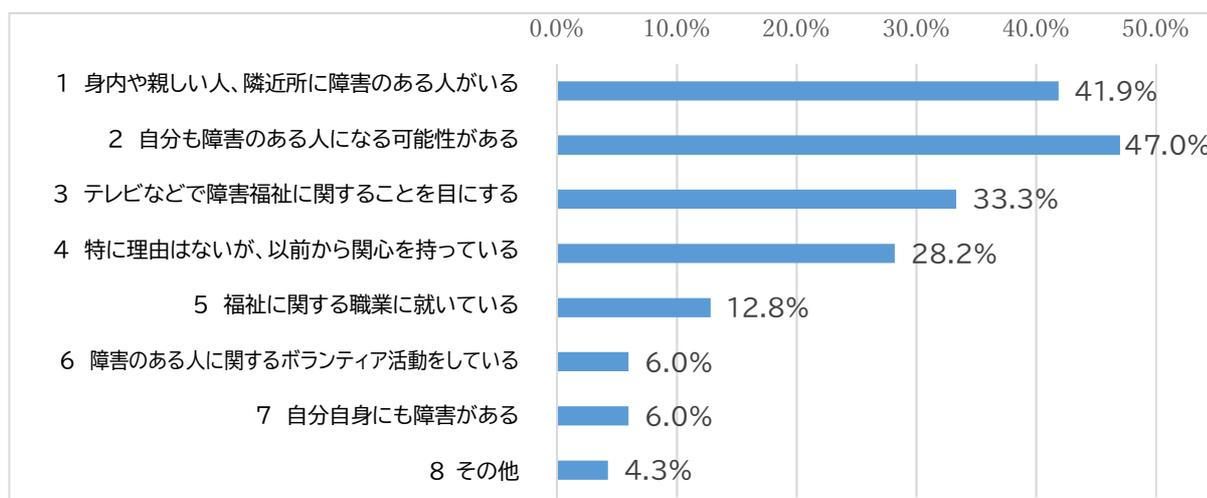
問5 あなたは、障害福祉に関心をお持ちですか(○は1つだけ)



		回答者数	1 大変関心がある	2 ある程度関心がある	3 あまり関心がない	4 ほとんど関心がない	無回答
全体		142人	21.8%	60.6%	14.8%	2.1%	0.7%
性別	男性	59人	15.3%	67.8%	13.6%	1.7%	1.7%
	女性	83人	26.5%	55.4%	15.7%	2.4%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15人	20.0%	66.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	30歳代	22人	22.7%	40.9%	36.4%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	44.0%	48.0%	4.0%	4.0%	0.0%
	50歳代	23人	17.4%	65.2%	13.0%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	8.3%	70.8%	20.8%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	18.2%	69.7%	9.1%	0.0%	3.0%
区別	門司区	18人	16.7%	72.2%	11.1%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	15.4%	73.1%	7.7%	3.8%	0.0%
	小倉南区	28人	28.6%	50.0%	21.4%	0.0%	0.0%
	若松区	11人	45.5%	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%
	八幡東区	11人	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	18.9%	56.8%	21.6%	2.7%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%

「1 大変関心がある」(21.8%)、「2 ある程度関心がある」(60.6%)を合わせ 82.4%が障害福祉に関心を持っているとの回答でした。  
 年代別でみると、「1 大変関心がある」、「2 ある程度関心がある」を合わせた割合は40歳代が92.0%と最も高くなっています。

問6 <問5で「1 大変関心がある」または、「2 ある程度関心がある」と答えた方におたずねします>  
 どのような理由から関心をお持ちですか(○はいくつでも)

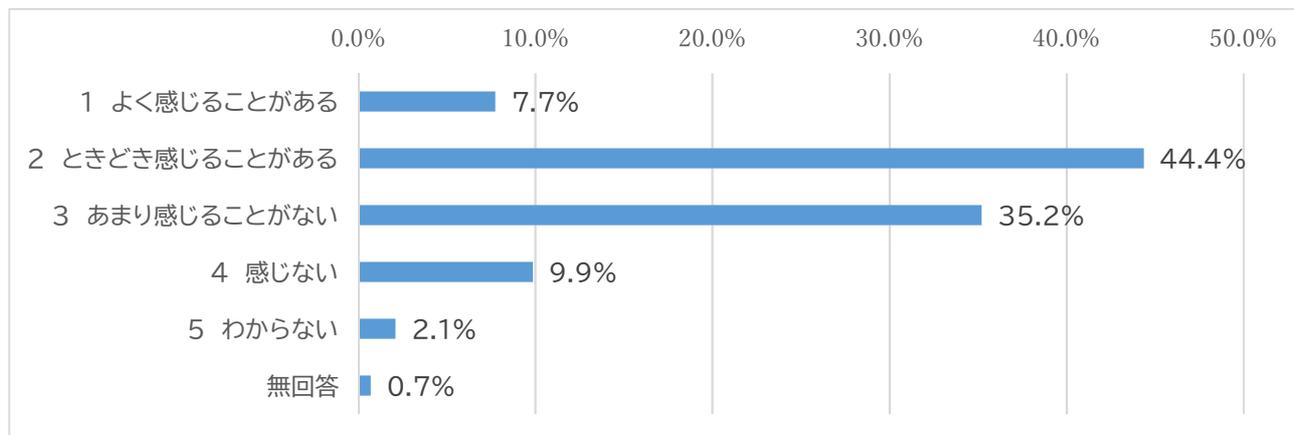


		回答者数	1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる	2 自分も障害のある人になる可能性がある	3 テレビなどで障害福祉に関することを目にする	4 特に理由はないが、以前から関心を持っている	5 福祉に関する職業に就いている	6 障害のある人に関するボランティア活動をしている	7 自分自身にも障害がある	8 その他
全体		117人	41.9%	47.0%	33.3%	28.2%	12.8%	6.0%	6.0%	4.3%
性別	男性	49人	36.7%	44.9%	38.8%	32.7%	4.1%	4.1%	6.1%	2.0%
	女性	68人	45.6%	48.5%	29.4%	25.0%	19.1%	7.4%	5.9%	5.9%
年齢別	20歳代以下	13人	38.5%	23.1%	23.1%	30.8%	15.4%	0.0%	15.4%	7.7%
	30歳代	14人	42.9%	50.0%	28.6%	21.4%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
	40歳代	23人	39.1%	56.5%	21.7%	17.4%	34.8%	13.0%	13.0%	4.3%
	50歳代	19人	47.4%	31.6%	26.3%	26.3%	5.3%	5.3%	0.0%	10.5%
	60歳代	19人	47.4%	57.9%	47.4%	31.6%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	29人	37.9%	51.7%	44.8%	37.9%	0.0%	3.4%	6.9%	3.4%
区別	門司区	16人	43.8%	68.8%	18.8%	31.3%	12.5%	0.0%	0.0%	6.3%
	小倉北区	23人	39.1%	47.8%	39.1%	43.5%	4.3%	0.0%	0.0%	8.7%
	小倉南区	22人	31.8%	45.5%	22.7%	18.2%	31.8%	13.6%	0.6%	9.1%
	若松区	9人	55.6%	44.4%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	50.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	28人	42.9%	42.9%	42.9%	28.6%	14.3%	7.1%	0.3%	0.0%
	戸畑区	9人	44.4%	11.1%	33.3%	33.3%	0.0%	22.2%	2.5%	0.0%

どのような理由から障害福祉に関心を持ったかについては、「2 自分も障害のある人になる可能性がある」(47.0%)が最も高く、次いで「1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(41.9%)の順となっています。

問7 あなたは、日常生活や地域で障害のある人に対する差別・偏見などを感じることはありませんか  
(○は各々1つだけ)

(1)身体障害のある人に対して



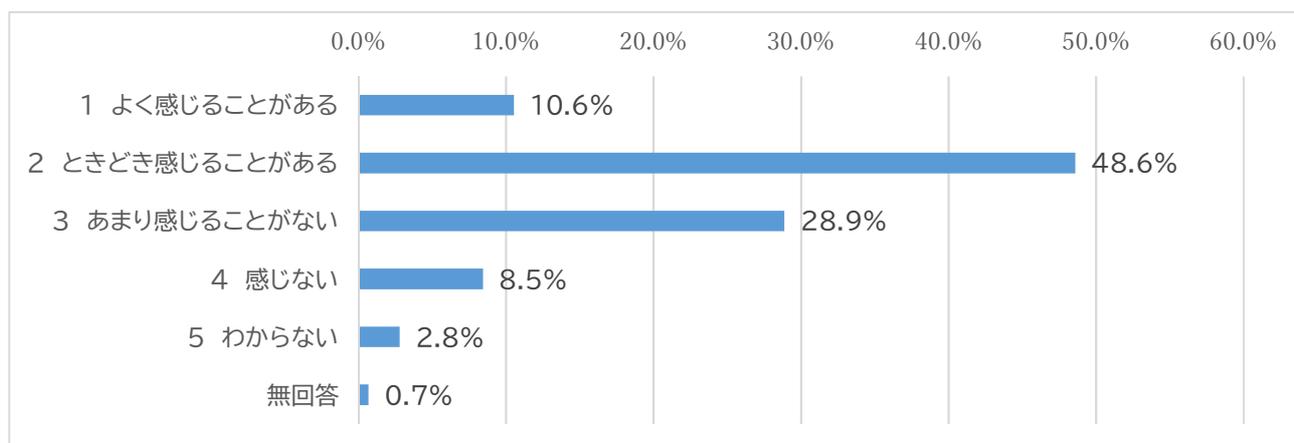
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 ときどき感 じるこ とがある	3 あま り感 じること がない	4 感 じ ない	5 わか ら ない	無回答
全体		142人	7.7%	44.4%	35.2%	9.9%	2.1%	0.7%
性別	男性	59人	8.5%	44.1%	30.5%	11.9%	3.4%	1.7%
	女性	83人	7.2%	44.6%	38.6%	8.4%	1.2%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15人	6.7%	73.3%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	30歳代	22人	4.5%	31.8%	45.5%	13.6%	4.5%	0.0%
	40歳代	25人	16.0%	52.0%	24.0%	8.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	4.3%	43.5%	39.1%	8.7%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	6.1%	36.4%	42.4%	12.1%	0.0%	3.0%
区別	門司区	18人	11.1%	44.4%	38.9%	5.6%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	3.8%	42.3%	34.6%	19.2%	0.0%	0.0%
	小倉南区	28人	10.7%	57.1%	21.4%	7.1%	3.6%	0.0%
	若松区	11人	9.1%	36.4%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%
	八幡東区	11人	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	8.1%	40.5%	37.8%	10.8%	2.7%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	45.5%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%

日常生活や地域で(1)身体障害のある人に対する差別・偏見などを「1 よく感じることもある」(7.7%)と「2 ときどき感じることもある」(44.4%)を合わせて、52.1%と半数以上となっています。

年代別にみると20歳代以下が「1 よく感じることもある」(6.7%)と「2 ときどき感じるこがある」(73.3%)を合わせて80.0%と最も高くなっています。

問7

(2)知的障害のある人に対して



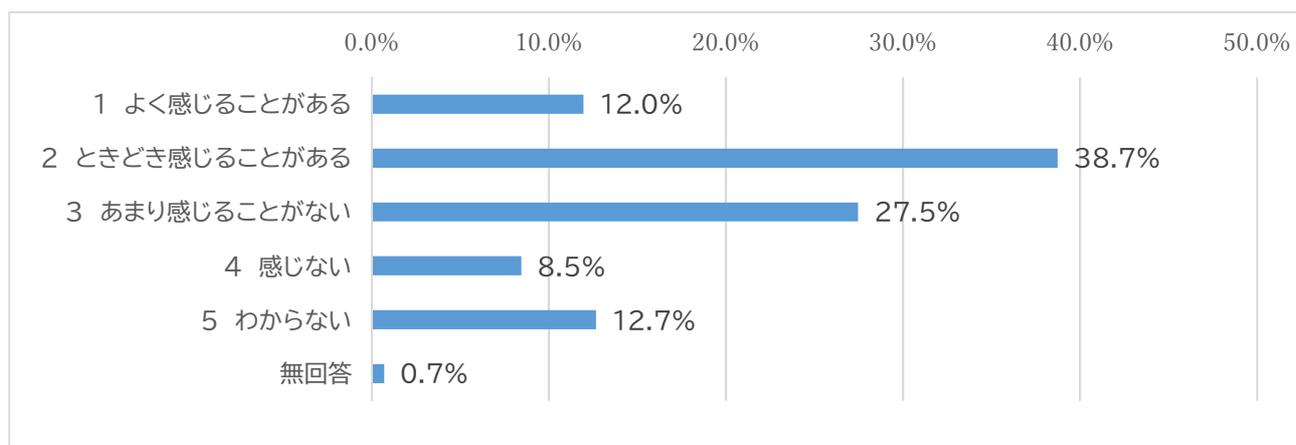
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない	無回答
全体		142人	10.6%	48.6%	28.9%	8.5%	2.8%	0.7%
性別	男性	59人	11.9%	44.1%	25.4%	13.6%	3.4%	1.7%
	女性	83人	9.6%	51.8%	31.3%	4.8%	2.4%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15人	13.3%	66.7%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	30歳代	22人	4.5%	40.9%	40.9%	9.1%	4.5%	0.0%
	40歳代	25人	28.0%	48.0%	16.0%	8.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	65.2%	26.1%	8.7%	0.0%	0.0%
	60歳代	24人	12.5%	41.7%	41.7%	4.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	6.1%	39.4%	33.3%	12.1%	6.1%	3.0%
区別	門司区	18人	16.7%	61.1%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	7.7%	42.3%	30.8%	19.2%	0.0%	0.0%
	小倉南区	28人	17.9%	57.1%	14.3%	7.1%	3.6%	0.0%
	若松区	11人	9.1%	36.4%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%
	八幡東区	11人	9.1%	18.2%	63.6%	0.0%	9.1%	0.0%
	八幡西区	37人	5.4%	54.1%	32.4%	5.4%	2.7%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	45.5%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%

(2)知的障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(10.6%)と「2 ときどき感じることもある」(48.6%)を合わせて、59.2%と半数以上となっています。

年代別にみると20歳代以下が「1 よく感じることもある」(13.3%)と「2 ときどき感じることもある」(66.7%)を合わせて80.0%と最も高くなっています。

問7

(3)精神障害のある人に対して



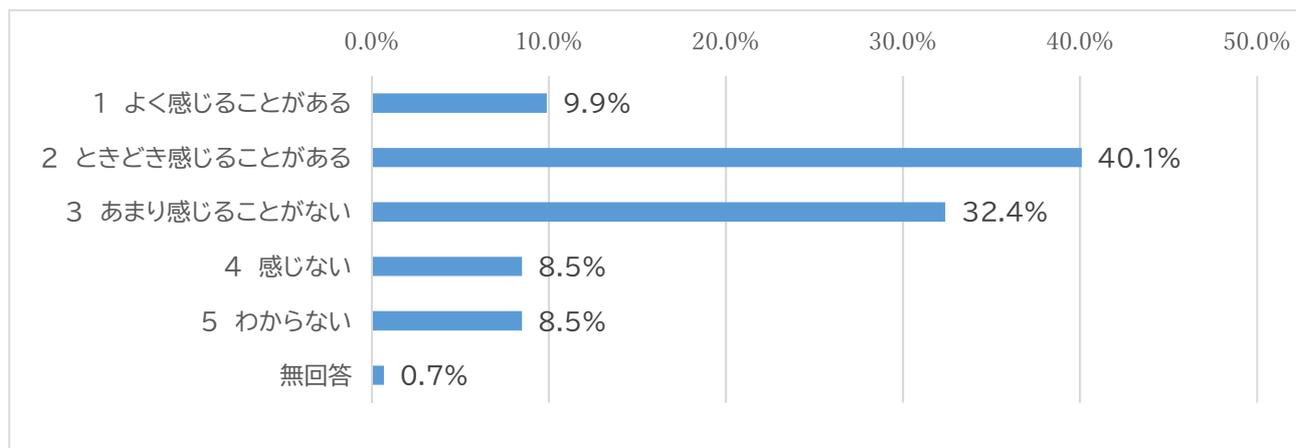
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない	無回答
全体		142人	12.0%	38.7%	27.5%	8.5%	12.7%	0.7%
性別	男性	59人	11.9%	33.9%	22.0%	13.6%	16.9%	1.7%
	女性	83人	12.0%	42.2%	31.3%	4.8%	9.6%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15人	20.0%	53.3%	13.3%	6.7%	6.7%	0.0%
	30歳代	22人	9.1%	36.4%	31.8%	9.1%	13.6%	0.0%
	40歳代	25人	20.0%	44.0%	20.0%	8.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23人	4.3%	52.2%	26.1%	8.7%	8.7%	0.0%
	60歳代	24人	16.7%	29.2%	37.5%	4.2%	12.5%	0.0%
	70歳以上	33人	6.1%	27.3%	30.3%	12.1%	21.2%	3.0%
区別	門司区	18人	22.2%	44.4%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	小倉北区	26人	3.8%	26.9%	38.5%	19.2%	11.5%	0.0%
	小倉南区	28人	21.4%	53.6%	14.3%	7.1%	3.6%	0.0%
	若松区	11人	9.1%	45.5%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%
	八幡東区	11人	0.0%	36.4%	36.4%	9.1%	18.2%	0.0%
	八幡西区	37人	5.4%	35.1%	32.4%	5.4%	21.6%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	27.3%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%

(3)精神障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(12.0%)と「2 ときどき感じることもある」(38.7%)を合わせて、50.7%と半数以上となっています。

年代別にみると20歳代以下が「1 よく感じることもある」(20.0%)と「2 ときどき感じることもある」(53.3%)を合わせて73.3%と最も高くなっています。

問7

(4)発達障害のある人に対して



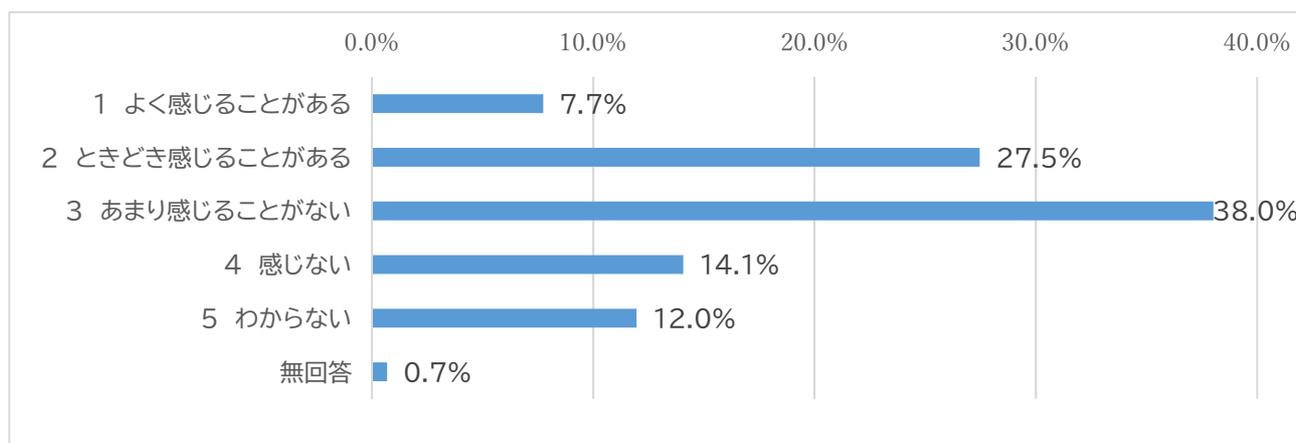
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない	無回答
全体		142	9.9%	40.1%	32.4%	8.5%	8.5%	0.7%
性別	男性	59	6.8%	39.0%	32.2%	11.9%	8.5%	1.7%
	女性	83	12.0%	41.0%	32.5%	6.0%	8.4%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15	20.0%	60.0%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	30歳代	22	9.1%	40.9%	27.3%	13.6%	9.1%	0.0%
	40歳代	25	24.0%	40.0%	24.0%	4.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23	4.3%	43.5%	43.5%	0.0%	8.7%	0.0%
	60歳代	24	4.2%	37.5%	37.5%	12.5%	8.3%	0.0%
	70歳以上	33	3.0%	30.3%	42.4%	12.1%	9.1%	3.0%
区別	門司区	18	11.1%	55.6%	22.2%	5.6%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26	7.7%	30.8%	30.8%	15.4%	15.4%	0.0%
	小倉南区	28	14.3%	53.6%	21.4%	3.6%	7.1%	0.0%
	若松区	11	9.1%	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%
	八幡東区	11	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	0.0%
	八幡西区	37	10.8%	32.4%	43.2%	5.4%	8.1%	0.0%
	戸畑区	11	9.1%	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%

(4)発達障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(9.9%)と「2 ときどき感じることもある」(40.1%)を合わせて、50.0%とちょうど半数となっています。

年代別にみると20歳代以下が「1 よく感じることもある」(20.0%)と「2 ときどき感じることもある」(60.0%)を合わせて80.0%と最も高くなっています。

問7

(5)難病患者の人に対して



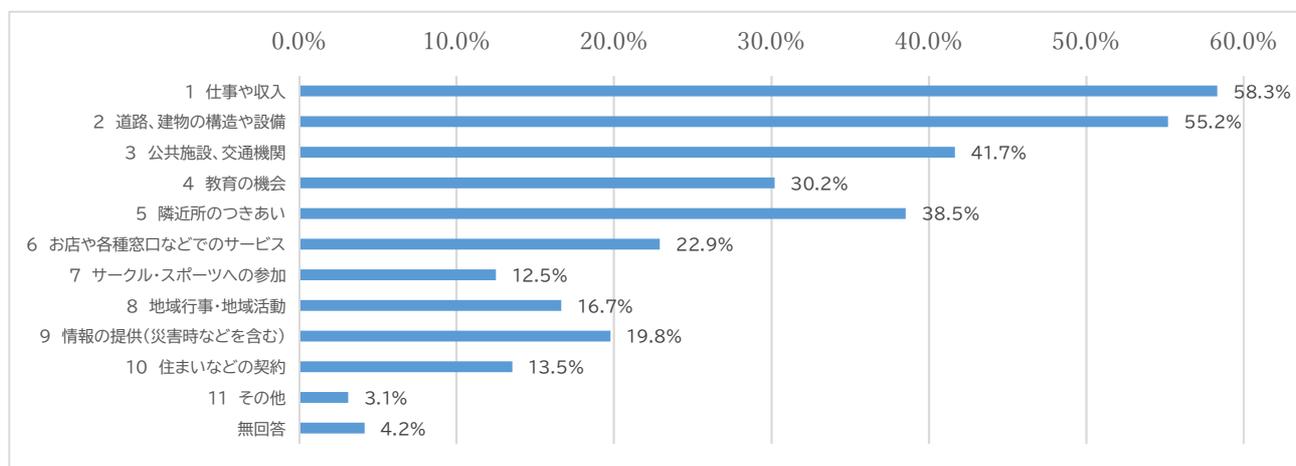
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない	無回答
全体		142人	7.7%	27.5%	38.0%	14.1%	12.0%	0.7%
性別	男性	59人	8.5%	32.2%	27.1%	18.6%	11.9%	1.7%
	女性	83人	7.2%	24.1%	45.8%	10.8%	12.0%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15人	6.7%	33.3%	33.3%	13.3%	13.3%	0.0%
	30歳代	22人	4.5%	22.7%	40.9%	13.6%	18.2%	0.0%
	40歳代	25人	20.0%	32.0%	28.0%	12.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	30.4%	43.5%	13.0%	13.0%	0.0%
	60歳代	24人	4.2%	25.0%	50.0%	8.3%	12.5%	0.0%
	70歳以上	33人	9.1%	24.2%	33.3%	21.2%	9.1%	3.0%
区別	門司区	18人	11.1%	44.4%	27.8%	5.6%	11.1%	0.0%
	小倉北区	26人	3.8%	23.1%	42.3%	15.4%	15.4%	0.0%
	小倉南区	28人	14.3%	32.1%	32.1%	10.7%	10.7%	0.0%
	若松区	11人	9.1%	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	9.1%
	八幡東区	11人	0.0%	18.2%	36.4%	27.3%	18.2%	0.0%
	八幡西区	37人	5.4%	21.6%	48.6%	13.5%	10.8%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%

(5)難病患者の人に対する差別・偏見では、「3 あまり感じることはない」(38.0%)と「4 感じない」(14.1%)を合わせて、52.1%と半数以上となっています。

「3 あまり感じることはない」と「4 感じない」との回答うち、年代別では60歳代が58.3%と最も高くなっています。

問8 <問7で一つでも「1 よく感じることもある」又は「2 ときどき感じることもある」と答えた方におたずねします>

どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか(〇はいくつでも)



※設問の回答には補足説明あり  
 1 仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)  
 9 情報の提供(災害時などを含む)  
 10 住まいなどの契約(アパートやマンションなどの賃貸契約など)

	回答者数	1 仕事や収入	2 道路、建物の構造や設備	3 公共施設、交通機関	4 教育の機会	5 隣近所のつきあい	6 お店や各種窓口などでのサービス	7 サークル・スポーツへの参加	8 地域行事・地域活動	9 情報の提供	10 住まいなどの契約	11 その他	無回答	
全体	96人	58.3%	55.2%	41.7%	30.2%	38.5%	22.9%	12.5%	16.7%	19.8%	13.5%	3.1%	4.2%	
性別	男性	39人	61.5%	56.4%	41.0%	25.6%	41.0%	25.6%	15.4%	23.1%	23.1%	15.4%	0.0%	2.6%
	女性	57人	56.1%	54.4%	42.1%	33.3%	36.8%	21.1%	10.5%	12.3%	17.5%	12.3%	5.3%	5.3%
年齢別	20歳以下	12人	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	75.0%	8.3%	0.0%	0.0%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	30歳代	12人	58.3%	66.7%	41.7%	50.0%	16.7%	25.0%	8.3%	8.3%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	40歳代	20人	60.0%	65.0%	55.0%	20.0%	35.0%	35.0%	15.0%	30.0%	30.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	17人	52.9%	41.2%	29.4%	29.4%	41.2%	5.9%	23.5%	11.8%	5.9%	11.8%	5.9%	11.8%
	60歳代	17人	47.1%	52.9%	35.3%	41.2%	41.2%	29.4%	11.8%	23.5%	11.8%	11.8%	0.0%	11.8%
	70歳以上	18人	66.7%	66.7%	50.0%	16.7%	27.8%	27.8%	11.1%	16.7%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14人	78.6%	57.1%	50.0%	14.3%	35.7%	21.4%	7.1%	7.1%	21.4%	14.3%	7.1%	0.0%
	小倉北区	17人	52.9%	52.9%	47.1%	23.5%	41.2%	11.8%	5.9%	11.8%	17.6%	5.9%	5.9%	0.0%
	小倉南区	22人	63.6%	59.1%	36.4%	45.5%	50.0%	13.6%	13.6%	18.2%	22.7%	18.2%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	57.1%	42.9%	42.9%	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	5人	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	八幡西区	25人	56.0%	64.0%	40.0%	28.0%	32.0%	40.0%	20.0%	20.0%	28.0%	12.0%	4.0%	12.0%
	戸畑区	6人	50.0%	33.3%	33.3%	50.0%	50.0%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%

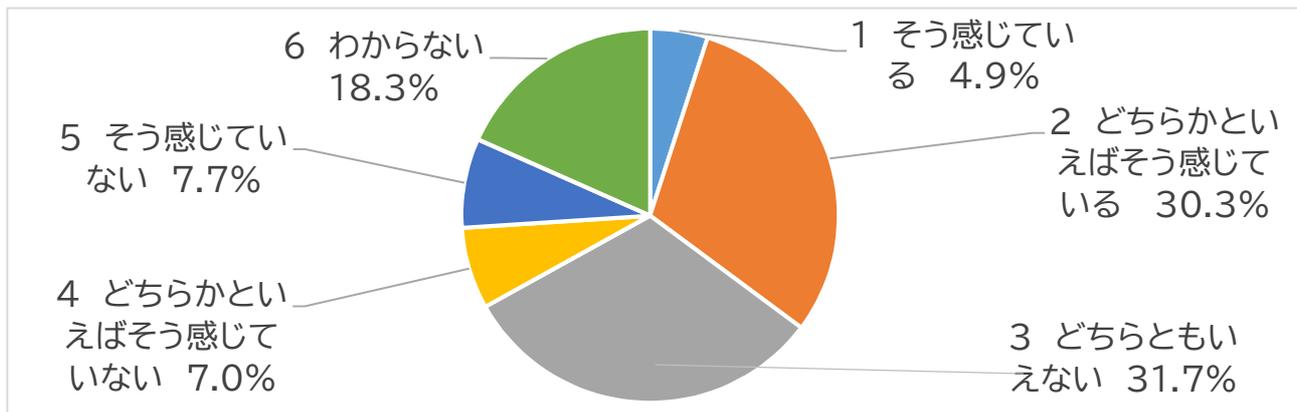
最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容については、「1 仕事や収入」(58.3%)が最も高く、次いで「2 道路、建物の構造や設備」(55.2%)の順となっています。

## 2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について

### 【障害のある人の雇用・就業機会の確保と拡大】

問9 北九州市では、働く意欲のある障害のある人の雇用を促進するため、障害者しごとサポートセンターを設置し、障害のある人への就労支援に取り組んでいます。

また、企業での障害のある人の雇用を促進するための取り組み、一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供し、必要な支援を行う就労継続支援事業所等の充実などにも取り組んでいます。そこで、おたずねします。あなたは、北九州市では、障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じますか。(○は1つだけ)



		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じていない	5 そう感じていない	6 わからない
全体		142人	4.9%	30.3%	31.7%	7.0%	7.7%	18.3%
性別	男性	59人	5.1%	28.8%	32.2%	8.5%	6.8%	18.6%
	女性	83人	4.8%	31.3%	31.3%	6.0%	8.4%	18.1%
年齢別	20歳代以下	15人	0.0%	26.7%	13.3%	0.0%	13.3%	46.7%
	30歳代	22人	9.1%	31.8%	22.7%	9.1%	4.5%	22.7%
	40歳代	25人	4.0%	24.0%	28.0%	12.0%	16.0%	16.0%
	50歳代	23人	4.3%	39.1%	34.8%	4.3%	8.7%	8.7%
	60歳代	24人	0.0%	37.5%	41.7%	4.2%	4.2%	12.5%
	70歳以上	33人	9.1%	24.2%	39.4%	9.1%	3.0%	15.2%
区別	門司区	18人	0.0%	33.3%	38.9%	5.6%	0.0%	22.2%
	小倉北区	26人	7.7%	19.2%	34.6%	11.5%	7.7%	19.2%
	小倉南区	28人	7.1%	32.1%	28.6%	0.0%	10.7%	21.4%
	若松区	11人	0.0%	27.3%	36.4%	9.1%	9.1%	18.2%
	八幡東区	11人	0.0%	36.4%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%
	八幡西区	37人	5.4%	27.0%	29.7%	10.8%	8.1%	18.9%
	戸畑区	11人	9.1%	54.5%	18.2%	0.0%	9.1%	9.1%

障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じるかについて、「1 そう感じている」(4.9%)、「2 どちらかといえばそう感じている」(30.3%)を合わせて 35.2%となり、「4 どちらかといえばそう感じていない」(7.0%)、「5 そう感じていない」(7.7%)を合わせた 14.7%を上回っています。

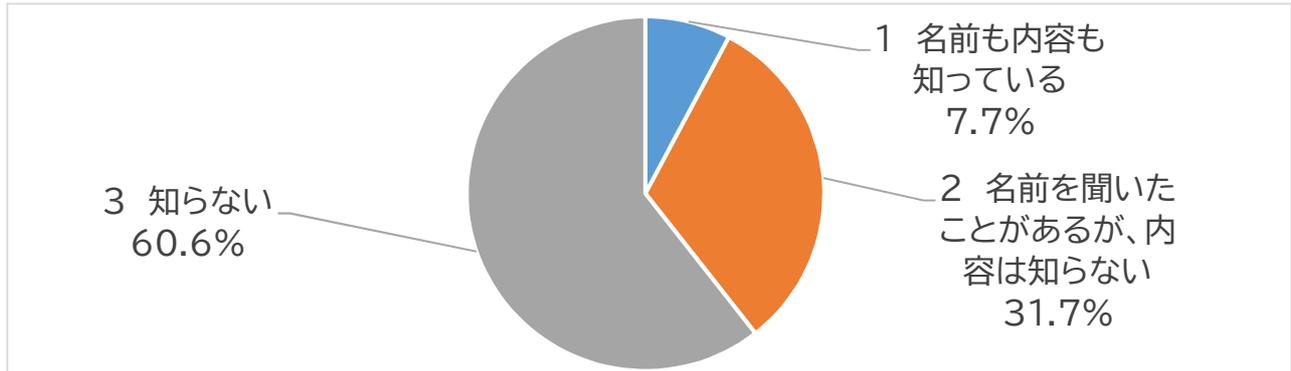
【障害者差別解消法や北九州市障害者差別解消条例の周知】

問10 平成28年4月1日、障害を理由とする差別を禁止して、障害のない人との平等な機会や待遇を保障するために「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、差別を解消するための措置として、国・地方公共団体等及び民間事業者に対して「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられています。

また、本市では、「障害者差別解消法」を補完し、市、事業者および市民が協力して、「障害を理由とする差別」の解消に向け主体的に取り組み、共生社会の実現を目指すための「北九州市障害者差別解消条例」を制定しています。

あなたは、「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」をご存知ですか(○は1つだけ)



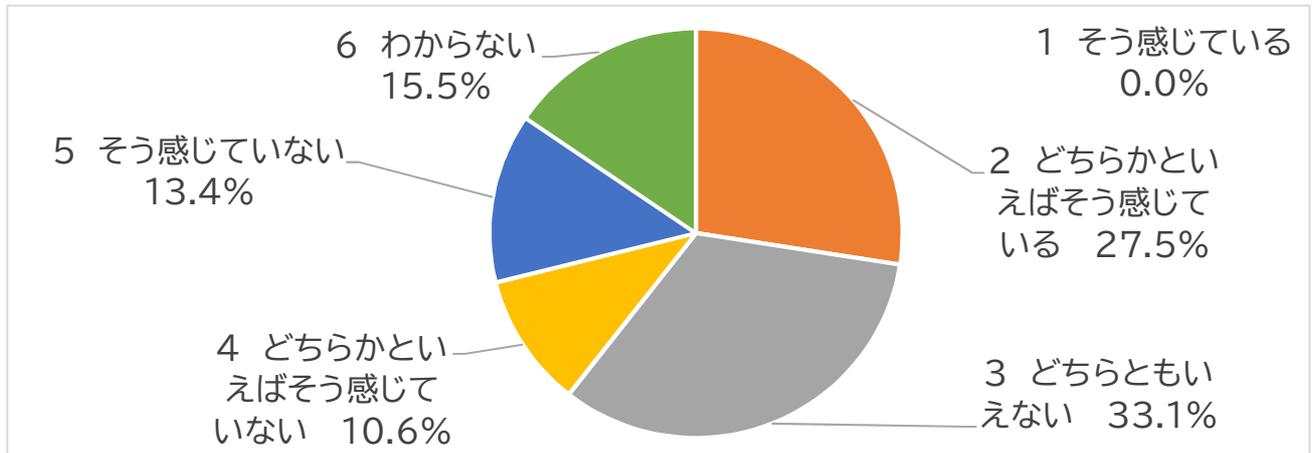
		回答者数	1 名前も内容も知っている	2 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	3 知らない
全体		142人	7.7%	31.7%	60.6%
性別	男性	59人	5.1%	39.0%	55.9%
	女性	83人	9.6%	26.5%	63.9%
年齢別	20歳代以下	15人	6.7%	6.7%	86.7%
	30歳代	22人	4.5%	13.6%	81.8%
	40歳代	25人	16.0%	32.0%	52.0%
	50歳代	23人	8.7%	26.1%	65.2%
	60歳代	24人	4.2%	25.0%	70.8%
	70歳以上	33人	6.1%	63.6%	30.3%
区別	門司区	18人	5.6%	38.9%	55.6%
	小倉北区	26人	3.8%	46.2%	50.0%
	小倉南区	28人	10.7%	32.1%	57.1%
	若松区	11人	9.1%	54.5%	36.4%
	八幡東区	11人	0.0%	9.1%	90.9%
	八幡西区	37人	10.8%	18.9%	70.3%
	戸畑区	11人	9.1%	27.3%	63.6%

「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」について知っているかについては、「1 名前も内容も知っている」(7.7%)、「2 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(31.7%)を合わせて39.4%に留まっており、「3 知らない」(60.6%)の方が、約21ポイント上回っています。

【障害のある人の人権の尊重】

問11 北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解を深め、障害の有無にかかわらず、お互いの人権を尊重できる社会を実現するため、行政だけでなく地域・学校・企業など様々な機会をとらえた市民啓発を推進しています。そこで、おたずねします。

北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透し、不当な差別的取扱いの無い、合理的な配慮が提供される社会になったと感じますか(○は1つだけ)

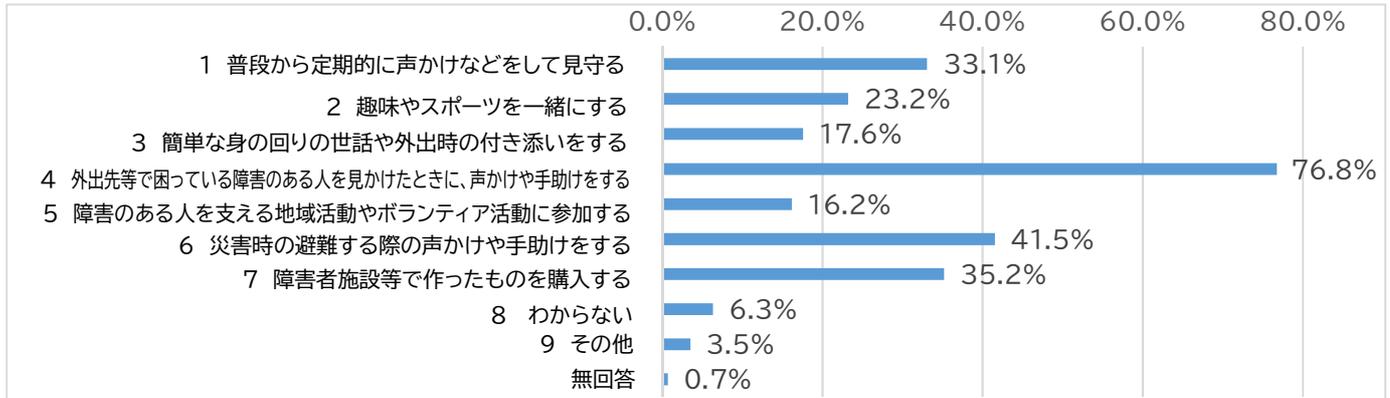


		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じている	5 そう感じている	6 わからない
全体		142人	0.0%	27.5%	33.1%	10.6%	13.4%	15.5%
性別	男性	59人	0.0%	32.2%	30.5%	8.5%	10.2%	18.6%
	女性	83人	0.0%	24.1%	34.9%	12.0%	15.7%	13.3%
年齢別	20歳代以下	15人	0.0%	33.3%	26.7%	0.0%	20.0%	20.0%
	30歳代	22人	0.0%	27.3%	40.9%	9.1%	9.1%	13.6%
	40歳代	25人	0.0%	20.0%	32.0%	8.0%	24.0%	16.0%
	50歳代	23人	0.0%	26.1%	21.7%	30.4%	17.4%	4.3%
	60歳代	24人	0.0%	25.0%	37.5%	8.3%	8.3%	20.8%
	70歳以上	33人	0.0%	33.3%	36.4%	6.1%	6.1%	18.2%
区別	門司区	18人	0.0%	33.3%	27.8%	11.1%	11.1%	16.7%
	小倉北区	26人	0.0%	30.8%	19.2%	19.2%	15.4%	15.4%
	小倉南区	28人	0.0%	35.7%	28.6%	3.6%	10.7%	21.4%
	若松区	11人	0.0%	18.2%	36.4%	9.1%	18.2%	18.2%
	八幡東区	11人	0.0%	9.1%	63.6%	18.2%	0.0%	9.1%
	八幡西区	37人	0.0%	18.9%	40.5%	8.1%	18.9%	13.5%
	戸畑区	11人	0.0%	45.5%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「1 そう感じている」は 0.0%でしたが、「2 どちらかといえばそう感じている」(27.5%)との肯定的な回答と、「4 どちらかといえばそう感じている」(10.6%)、「5 そう感じている」(13.4%)との否定的な回答の合計 24.0%を比べると、肯定的な回答が 3.5 ポイント上回っています。

### 3. 共生社会を実現するための取り組みについて

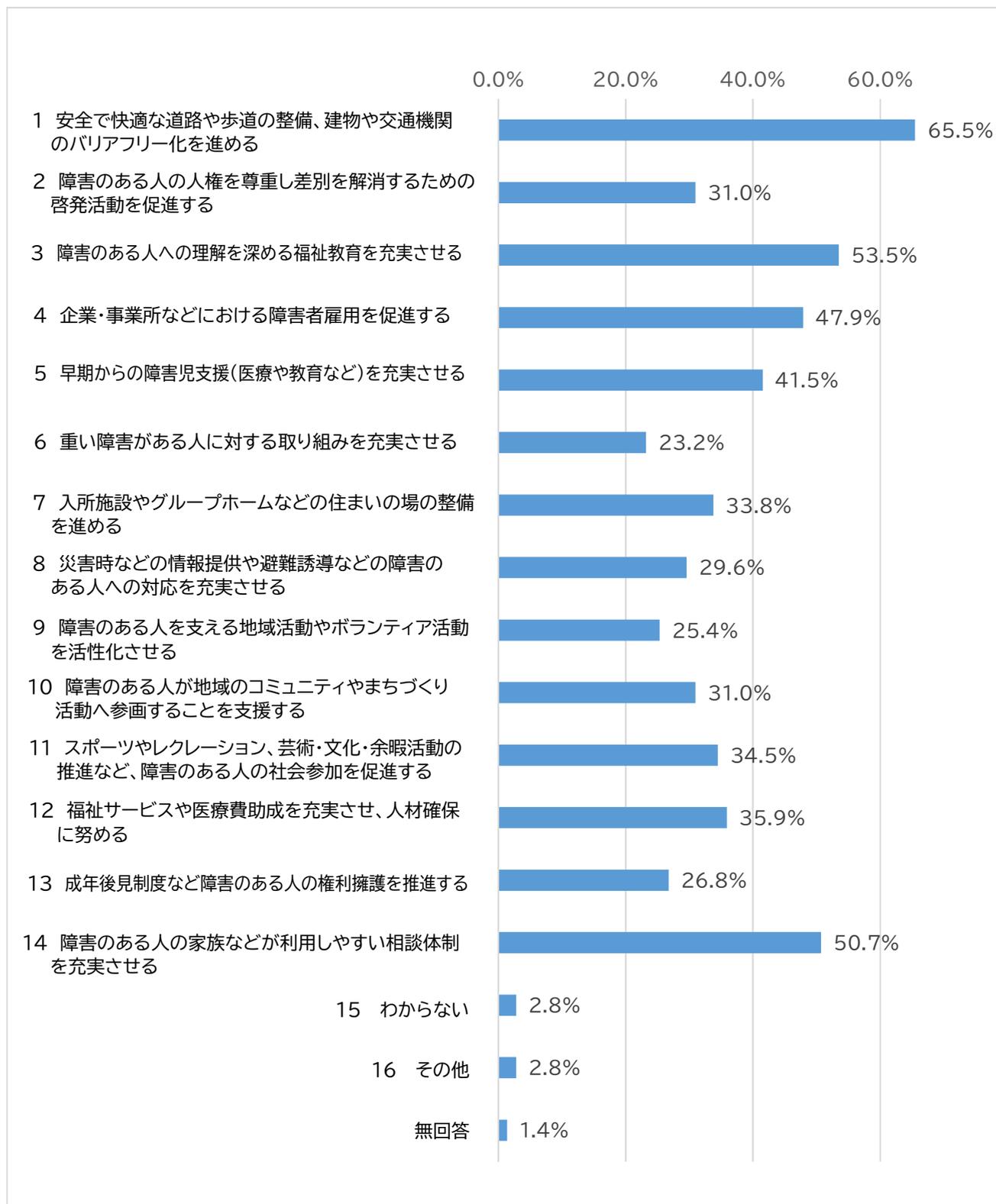
問12 北九州市では、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指しています。今後、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何ですか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。



	回答者数	1 普段から定期的に声かけなどをして見守る	2 趣味やスポーツを一緒にする	3 簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする	4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする	5 障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する	6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする	7 障害者施設等で作ったものを購入する	8 わからない	9 その他	無回答	
全体	142人	33.1%	23.2%	17.6%	76.8%	16.2%	41.5%	35.2%	6.3%	3.5%	0.7%	
性別	男性	59人	33.9%	25.4%	16.9%	71.2%	16.9%	44.1%	32.2%	6.8%	1.7%	0.0%
	女性	83人	32.5%	21.7%	18.1%	80.7%	15.7%	39.8%	37.3%	6.0%	4.8%	1.2%
年齢別	20歳以下	15人	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	26.7%	33.3%	13.3%	13.3%	13.3%	0.0%
	30歳代	22人	31.8%	13.6%	18.2%	77.3%	22.7%	27.3%	22.7%	4.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	52.0%	36.0%	24.0%	84.0%	28.0%	40.0%	28.0%	8.0%	4.0%	0.0%
	50歳代	23人	34.8%	26.1%	30.4%	73.9%	17.4%	30.4%	26.1%	8.7%	0.0%	0.0%
	60歳代	24人	20.8%	20.8%	8.3%	91.7%	8.3%	54.2%	58.3%	4.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	33.3%	21.2%	18.2%	69.7%	3.0%	54.5%	48.5%	3.0%	6.1%	3.0%
区別	門司区	18人	22.2%	5.6%	27.8%	77.8%	11.1%	38.9%	44.4%	11.1%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26人	30.8%	30.8%	11.5%	73.1%	7.7%	42.3%	38.5%	7.7%	7.7%	0.0%
	小倉南区	28人	35.7%	28.6%	17.9%	75.0%	25.0%	46.4%	32.1%	10.7%	0.0%	0.0%
	若松区	11人	45.5%	9.1%	18.2%	72.7%	9.1%	36.4%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	18.2%	18.2%	9.1%	72.7%	9.1%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%
	八幡西区	37人	40.5%	29.7%	21.6%	81.1%	18.9%	48.6%	35.1%	5.4%	2.7%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	18.2%	9.1%	81.8%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%

共生社会を実現するにあたって、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何かについては、「4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする」(76.8%)の割合が最も高く、次いで「6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする」(41.5%)、「7 障害者施設等で作ったものを購入する」(35.2%)の順となっています。

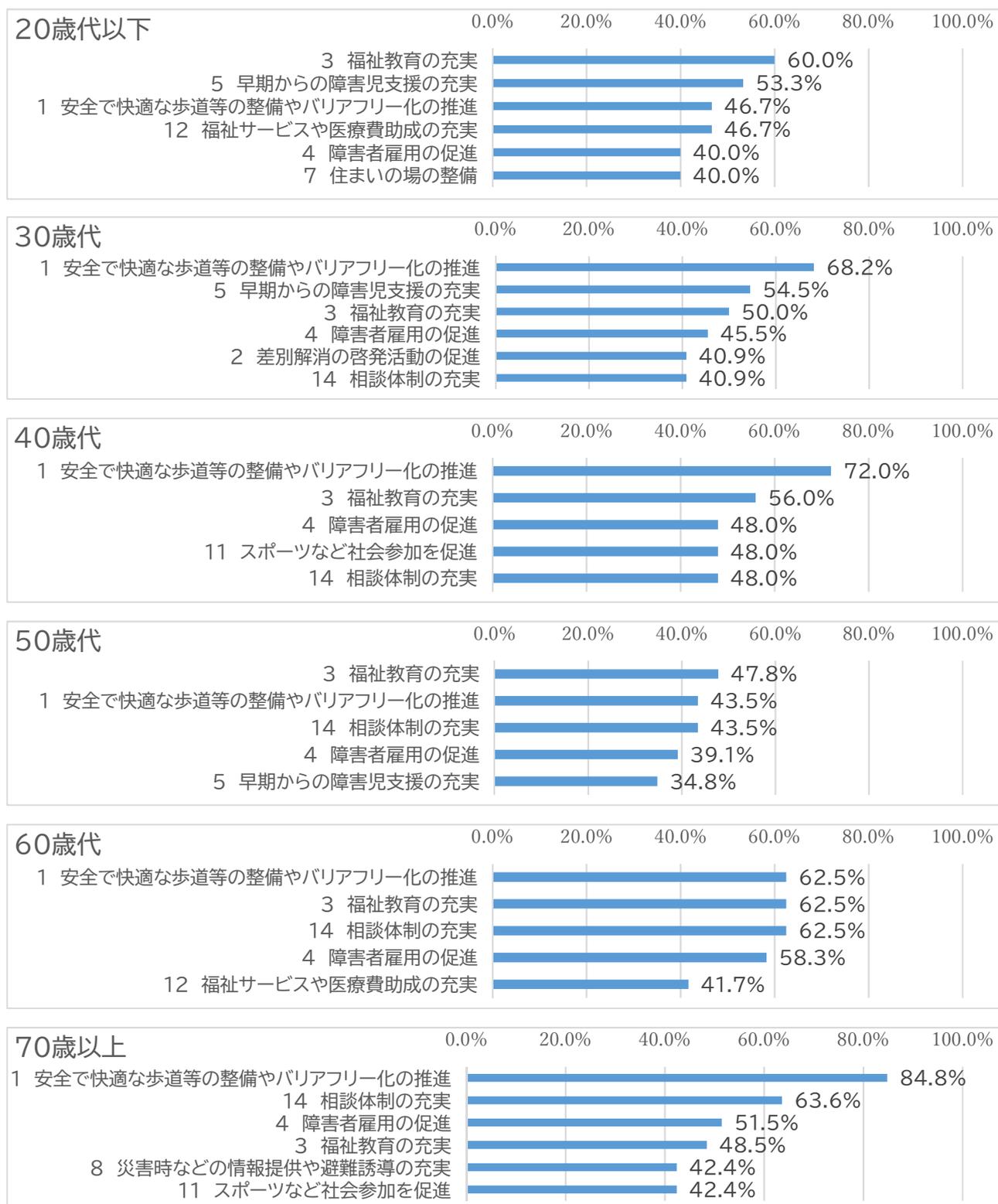
問13 あなたは、障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後、特に力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。



	回答者数	1 安全で快適な歩道等の整備やバリアフリー化の推進	2 差別解消の啓発活動の促進	3 福祉教育の充実	4 障害者雇用の促進	5 早期からの障害児支援の充実	6 重い障害がある人に対する取り組みの充実	7 住まいの整備	8 災害時などの情報提供や避難誘導の充実	9 地域活動やボランティア活動の活性化	
全体	142人	65.5%	31.0%	53.5%	47.9%	41.5%	23.2%	33.8%	29.6%	25.4%	
性別	男性	59人	64.4%	33.9%	54.2%	54.2%	35.6%	28.8%	33.9%	32.2%	32.2%
	女性	83人	66.3%	28.9%	53.0%	43.4%	45.8%	19.3%	33.7%	27.7%	20.5%
年齢別	20歳代以下	15人	46.7%	33.3%	60.0%	40.0%	53.3%	20.0%	40.0%	26.7%	20.0%
	30歳代	22人	68.2%	40.9%	50.0%	45.5%	54.5%	13.6%	27.3%	13.6%	18.2%
	40歳代	25人	72.0%	24.0%	56.0%	48.0%	40.0%	32.0%	44.0%	36.0%	32.0%
	50歳代	23人	43.5%	21.7%	47.8%	39.1%	34.8%	13.0%	26.1%	17.4%	13.0%
	60歳代	24人	62.5%	33.3%	62.5%	58.3%	33.3%	20.8%	37.5%	33.3%	33.3%
	70歳以上	33人	84.8%	33.3%	48.5%	51.5%	39.4%	33.3%	30.3%	42.4%	30.3%
区別	門司区	18人	55.6%	27.8%	66.7%	50.0%	38.9%	33.3%	33.3%	38.9%	22.2%
	小倉北区	26人	65.4%	19.2%	53.8%	38.5%	19.2%	11.5%	23.1%	19.2%	15.4%
	小倉南区	28人	57.1%	17.9%	50.0%	35.7%	53.6%	21.4%	39.3%	25.0%	21.4%
	若松区	11人	72.7%	54.5%	36.4%	54.5%	36.4%	18.2%	18.2%	27.3%	27.3%
	八幡東区	11人	72.7%	18.2%	63.6%	54.5%	45.5%	0.0%	18.2%	27.3%	27.3%
	八幡西区	37人	73.0%	43.2%	54.1%	59.5%	45.9%	32.4%	43.2%	35.1%	29.7%
	戸畑区	11人	63.6%	45.5%	45.5%	45.5%	54.5%	36.4%	45.5%	36.4%	45.5%

	回答者数	10 まちづくり活動参画への支援	11 スポーツなど社会参加を促進	12 福祉サービスや医療費助成の充実	13 障害のある人の権利擁護の推進	14 相談体制の充実	15 わからない	16 その他	無回答	
全体	142人	31.0%	34.5%	35.9%	26.8%	50.7%	2.8%	2.8%	1.4%	
性別	男性	59人	33.9%	39.0%	39.0%	28.8%	47.5%	1.7%	3.4%	1.7%
	女性	83人	28.9%	31.3%	33.7%	25.3%	53.0%	3.6%	2.4%	1.2%
年齢別	20歳代以下	15人	20.0%	26.7%	46.7%	33.3%	33.3%	6.7%	0.0%	6.7%
	30歳代	22人	31.8%	27.3%	31.8%	13.6%	40.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	44.0%	48.0%	44.0%	36.0%	48.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	13.0%	21.7%	21.7%	21.7%	43.5%	4.3%	8.7%	4.3%
	60歳代	24人	37.5%	33.3%	41.7%	29.2%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	33.3%	42.4%	33.3%	27.3%	63.6%	3.0%	6.1%	0.0%
区別	門司区	18人	33.3%	22.2%	44.4%	33.3%	61.1%	0.0%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26人	38.5%	30.8%	15.4%	19.2%	57.7%	11.5%	3.8%	0.0%
	小倉南区	28人	39.3%	42.9%	42.9%	25.0%	39.3%	0.0%	3.6%	7.1%
	若松区	11人	9.1%	27.3%	36.4%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%
	八幡西区	37人	27.0%	35.1%	45.9%	35.1%	64.9%	2.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	36.4%	54.5%	45.5%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%

## 年齢別の上位の回答



北九州市が特に力を入れるべき取り組みは何かについて、「1 安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」(65.5%)、の割合が最も高く、次いで「3 障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(53.5%)、「14 障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる」(50.7%)の順となっています。

問14 北九州市の障害福祉施策について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

46件の意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

〔行政の取り組みに関する事〕

- 自分自身が杖を使わないと長い距離を歩くことができなくなってきた。道路が平ということは大切だと思う。歩道はできるだけフラットにしてほしい。
- 仕事で精神疾患や発達障害のある方にかかわるが、相談先や進学、就労についての情報を知らなかったり、自分で情報収集する能力が十分でない方がいるので、相談先をわかりやすく一本化したり、積極的に支援者側から啓発していく必要がある。
- 成年後見人制度や各種手続きなどもっと市のサポートがあればよいと思う。
- 就労前、就学前の福祉政策は存在するが、就労後、就学後の福祉政策は少ない。
- 障害がある子どもの親が困っていることに対し、どこに相談すればよいか分からない、どの病院に行けば良いのか分からないなどの声を多く聞く。また、発達障害を診ることができる医療機関が市内には少なく、受診までの待ちの期間も長いようなので、医療についても、充実できると良いと思う。
- 障害のある人本人だけでなく、その家族のサポートも含めた施策が暮らしやすい街づくりに繋がると思う。誰もが住みやすい環境整備が今後も進んでいくことを期待している。

〔就労に関する事〕

- もう少し難病の方でも仕事がしやすい町になって欲しいと願う。

〔共生社会を実現するための取り組みに関する事〕

- 障害はそれぞれ違うのでどの程度までかかわっていくかはとてもむずかしいと思う。気持ちよく手助けを喜んでもらえるといいのですが、周りにいないのでわからないというのが本音。
- 私達の子育ての時代からくらべて、差別・偏見はなくなっている様に感じる。障害等のいる家庭も少し前向きになっているのではないかと思う。相談しやすい、行ける場所が充実してきている。
- 共生社会を実現するためには役所だけでなく市民の力ややさしさが必要。そのためには啓発活動を促進しなければと思う。
- 障害の範囲で出来る事を積極的に紹介して、障害者の方が社会にでていけるようになり、健常者と障害者両方が WinWin の関係が出来れば良いと思う。
- NPO 法人など、活動されている方々もおり素晴らしいと思う。また、市民として活動出来ることがあれば、ラインや市政便りで知らせたい。人と人の繋がりこそが、大事と思う。
- 高齢者施設で日ごろから関わっているが、本当に生活を支援続ける事の難しさを感じている。両方の気持ちの支えが大切だと考える。
- 自分の身の回りでは、障害者に対する理解や支援の輪が広がっていると感じる。今後とも、健常者との障壁のない交流や付き合い方が継続進化することを望んでいる。
- 今は身近に障害者の方がいないので具体的に思いつかないが、地域で支えられる体制は大切だと思うので、少しでも役に立てればと思う。一般市民が気軽に協力できる支援策などがあれば、市政だより等で教えてほしい。

## IV 全体考察

本市では、平成29年度に障害者基本法に基づく障害福祉分野の基本計画として、「北九州市障害者支援計画(平成30年度～令和4年度)」を策定しました。これは、「障害者基本法(第11条)」に規定された本市の障害者施策に関する基本的な計画である「市町村障害者計画」と、「障害者総合支援法(第88条)」に規定された、障害福祉サービス等の見込み量やその確保のための方策などを定めた「市町村障害福祉計画(第5期)」、「児童福祉法(第33条)」に規定された「市町村障害児福祉計画(第1期)」を包含した計画です。

また、令和2年度には「北九州市障害福祉計画(第5期)」、「北九州市障害児福祉計画(第1期)」が終了することから、「北九州市障害福祉計画(第6期)」、「北九州市障害児福祉計画(第2期)」を策定するとともに、「北九州市障害者計画」と一体的に推進するため、「北九州市障害者計画」の計画期間を令和5年度まで延長しました。

今回、「北九州市障害福祉計画(第6期)」、「北九州市障害児福祉計画(第2期)」及び「北九州市障害者計画」を包含する現行の「北九州市障害者支援計画」が令和5年度で計画期間が終了することから、令和6年度を初年度とする「(次期)北九州市障害者支援計画」を、令和5年度中に策定する予定です。

本案アンケートは障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を次期計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするため実施したものです。

### 【障害のある方への理解や関心について】

障害のある人に接したり、交流したりした経験がある人は、全体の79.6%で、そのうち身体障害がある人に接したり、交流した割合が84.1%と最も高くなっています。具体的な内容としては、平成28年度に実施した前回アンケートで最も答えが多かった「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(44.2%)に代わり、「身内や親しい人に障害のある人がいる」(47.8%)の回答が最も多くなりました。

一方で、障害のある人に接したり、交流したりした経験がない人の多くが、その理由として、「接する機会やきっかけがなかった」(89.7%)と回答しています。

また、障害福祉への関心度は、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると82.4%となり、その理由として、前回の「テレビなどで障害福祉に関することを目にする」(33.3%)に代わり、「自分も障害のある人になる可能性がある」(47.0%)、「身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(41.9%)の回答が多くなっており、障害のある方に接したり目にしたりする機会が増え、身近なテーマになっているとうかがえます。

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることもある人は、「よく感じることもある」、「ときどき感じることもある」を合わせた場合、「身体障害のある人」では52.1%、「知的障害のある人」では59.2%、「精神障害のある人」では50.7%、「発達障害のある人」では50.0%と高い割合となっていますが、「難病患者の人」では35.2%と低くなっています。

具体的に、どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるか尋ねたところ、「仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)」(58.3%)の回答が最も多く、次いで「道路、建物の構造や設備」(55.2%)、「公共施設、交通機関」(41.7%)の順となっています。

### 【北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

北九州市がこれまで取り組んできた障害福祉施策の中から3つの施策をあげて、施策の取り組みに対する評価等についてたずねました。

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じている」人の割合(「どちら

かといえばそう感じている」を含む。)は 35.2%、「感じていない」人の割合(「どちらかといえばそう感じていない」を含む。)は 14.7%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 31.7%と一定数あるため、今後一層の取り組みが必要であると考えられます。

障害者差別解消法や本市の障害者差別解消条例については、「知っている」人の割合(「聞いたことがあるが内容は知らない」を含む。)は、39.4%であり、「知らない」人の割合は 60.6%となっているため、今後一層の周知啓発が必要であると考えられます。

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと「そう感じている」人はいなかったものの、「どちらかといえばそう感じている」(27.5%)との肯定的な回答と、「感じていない」人の割合(どちらかといえばそう感じていない)を含む。)は 24.0%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 33.1%と最も高くなっているため、今後一層の取り組みが必要であると考えられます。

#### 【共生社会を実現するために必要な取り組みについて】

障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指している本市において、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、自分自身が地域の一員としてできると思うことを尋ねたところ、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声をかけや手助けをする」人の割合が 76.8%と最も多く、次いで「災害時の避難する際の声かけや手助けをする」が 41.5%であり、多くの方が外出先や災害時などに障害のある人が困っているときにかかわることができると考えていることが分かりました。

一方で、「簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする」(17.6%)、「障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する」(16.2%)など、障害のある人の生活を直接手助けするようなかわりには、消極的な回答でした。

障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後さらに力を入れるべき取り組みを尋ねたところ、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」の割合が 65.5%と最も高く、次いで「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(53.5%)、「障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる」(50.7%)、と続いています。これらについては、これまで取り組んできた施策でしたが、今後も引き続き充実を図っていく必要があることが分かりました。

**【まとめ】**

今回のアンケートでは、障害のある人への理解や関心、障害福祉施策の取組や共生社会を実現するための取組について、現時点で市民の実感を確認することができました。アンケート結果を「(次期)北九州市障害者支援計画」の策定にあたって参考とするとともに、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを進めるため、今後の障害福祉施策の推進に活かしていきます。

**【市政モニターに関すること】**

北九州市広報室広聴課 (TEL : 582-2527)

**【アンケートに関すること】**

北九州市保健福祉局障害福祉企画課 (TEL : 582-2453)